

# 連携

栗原市立栗原中央病院

広報誌 平成29年2月発行

編集：地域医療連携室

## 第61号

### 病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にす最善の医療を行い、地域に貢献します

### 基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます



## 信頼 親愛 共感

地域医療連携室顧問 副院長 佐藤 修一

新年おめでとうございます。  
早いもので平成も29年となりました。この間、震災をはじめとする度重なる自然災害、幾たびかの政権交代、バブル崩壊などの色々な出来事がありましたが、少子高齢化と地方の人口減少、ITの驚異的な進歩は着実に進んでいます。年末の新聞に2016年の出生数が100万人を割ったという記事がありました。これは1884年以来とすることで1950年のそれが270万人だったことを思うと衝撃的少なさです。近い将来、物心両面で国が破産するのではという心配が杞憂でなく思えてきました。

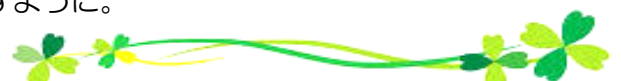
これに対抗する手段はITとグローバル化の普及による成長ではないでしょうか。つい数年前まではユビキタス（いつでもどこでもネットにつながる）社会を目指そうと言っていましたが、それはスマートフォンの普及で実現しました。今はIOT（モノのインターネット）が現実となりつつあり、近日中にO2Oで始まる局番がそれにあてられるそうです。AIの話題は自動車、囲碁、将棋にとどまらず、音声認識システムの進歩により我々医療の分野を一変されるのも遠い将来ではないでしょう。患者さんは症状を端末に訴えると、瞬時に見逃してはいけな

疾患のリストと確率が出てくる時代になるかもしれません。そうすると私のような内科医は用済みです。しかし人は多種多様であり、おかれた環境も色々です。その方に適した医療、介護を考えるのは人だと思えます。この文章のタイトルはIT業界の方がラジオのコラムで話されていたものです。デジタルの世界の方にははずいぶんアナログ的な言葉だと思いましたが、人種、宗教、性差などを越えた普遍的なものが根本でなければ成り立たないという主旨と受け止めました。

人口減少と高齢化が進む栗原市ですが、情報技術の進歩を取り入れながら、各職種で協力しその方に適したハートのある医療、介護を提供し、ひいてはそれが地方創生に結び付く端緒となる一年になればと思います。

最後に現実の話ですが、今年の4月より循環器内科が新設されることとなり、現在ソフト、ハード面で着々と準備中です。詳細は後日ご連絡申し上げますが、地域の医療レベル向上に寄与できると思いますのでよろしくお願い致します。

末尾になりますが皆様にとって良い一年でありますように。



# 高次脳機能障害研修会

平成28年11月25日(金)、平成28年度高次脳機能障害圏域研修会を開催しました。仙台厚生病院名誉院長、宮城高次脳機能障害連絡協議会・どんまいネット代表の遠藤実先生を講師にお招きし『高次脳機能障害とは？理解と支援のポイント』というテーマでご講演いただきました。研修会には78名の参加があり、宮城県内での診断・リハビリ・支援等がどのように行われているか具体的にお話がありました。



また当院リハビリテーション科主任作業療法士の金澤聡さんは、高次脳機能障害支援コーディネーターとして『高次脳機能障害地域支援拠点病院の役割と指定後の状況』について紹介しました。高次脳機能障害は外からは分かりにくい障害です。そのため本人の怠けであると捉えられたり、誤解を招くことが多く、なかなか周囲から理解を得られず孤立してしまうことがあります。参加者からは「高次脳機能障害についての実状と理解が深まった。」「支援体制を知ることができた。」などのご意見をいただきました。今後も地域支援拠点病院として、検査・診断等を行っていきますので気になる患者様がいらっしゃいましたらご紹介くださいますようお願い申し上げます。



## サロン de よらいん



栗原中央病院では、がんと向き合っている患者さんと家族の方を対象に毎月第2火曜日にがんサロンを開催しています。

平成28年12月13日(火)のがんサロンは、臨床宗教師を招いて数珠作り体験を行いました。自分が願うパワーをもっている天然石を2つ選び、思いを込めて作りました。その後一人ずつ、高橋臨床宗教師に念を入れて頂きました。



制作中も近況報告をしたり、初めて参加された方の話に耳を傾けながら和やかな時間を過ごす事ができました。

今年度のがんサロンは2月14日、3月14日のあと2回となっております。身近に一人で悩んでいる方がいましたら、お声掛けよろしくお願い致します。



## 栗原中央病院



## クリスマスコンサート ~ギターのとべ~

平成28年12月16日(金)に栗原中央病院クリスマスコンサートを開催しました。

当日は入院患者様含め、市内外から約100名がコンサートに来場しました。

くりくり保育園児による歌とおゆうぎ、そして三本木在住の菅原彰良さんをお招きしてギターのソロ演奏会を行いました。来場者からは「とても素敵でした。」「菅原さんの頑張る力に感動しました。」等のお声をいただきました。

今後も入院患者様だけでなく地域で闘病している患者様へ生きる勇気をもって頂けるような活動を継続していきたいと思っております。





## 学会・研修会・論文発表

☆岩手県立病院医学会雑誌・第56巻 第2号 2016 2016.12 発行

『睥神経内分泌癌切除後に補助化学療法を行い、20ヵ月無再発生存中の1例』

…齋藤之彦<sup>1</sup> (栗原市立栗原中央病院)、宮田 剛、臼田昌広、西牧宏泰、望月 泉 (岩手県立中央病院 外科・消化器外科)

☆第43回日本肩関節学会 ☆第13回肩の運動機能研究会 2016.10.21-22 — 広島市 —

『アンカー摩擦抵抗の deadman angle への影響』

…永元英明<sup>1</sup>, 山本宣幸<sup>2</sup>, 井樋栄二<sup>2</sup> 1 栗原市立栗原中央病院, 2 東北大学 整形外科

☆第78回日本臨床外科学会総会 2016.11.24-26 — 東京都 —

『再燃を繰り返した乳癌術後放射線療法後器質化肺炎の1例』

…中川 有, 中鉢誠司, 齋藤之彦

☆日本糖尿病学会東北地方会 2016.11.12 — 仙台市 —

『SGLT2 阻害薬の変更にて、血糖降下が得られた2型糖尿病6症例』

…木田真美, 小泉 勝, 佐藤修一, 小西秀知, 吉越仁美, 内海さやか

『GAD 抗体測定におけるRIA法とELISA法の病型診断能に関する検討』

…吉越仁美, 小泉 勝, 木田真美, 佐藤修一, 小西秀知, 内海さやか, 鈴木慎二

☆第16回日本リハビリテーションネットワーク研究会学術集会 2016.12.4 — 東京都 —

『運動器の介護予防 - これまでの取り組みと「くりこまモデル」(仮名)の構築』

…石田健司

☆第34回東北理学療法学術大会 2016.11.12-13 — 秋田市 —

『障害予防の観点からみる、ジュニアユース世代へのサッカー検診の取り組み』

…主藤弘太郎<sup>1</sup>, 畠 英里<sup>1</sup>, 太田浩貴<sup>1</sup>, 前川芳輝<sup>1</sup>, 阿部允哉<sup>1</sup>, 鎌田文彦<sup>1</sup>, 矢口春木<sup>2</sup>,  
永元英明<sup>1</sup>, 荒井 豊<sup>1</sup>, 石田健司<sup>1</sup> 1) 栗原市立栗原中央病院, 2) 東北大学病院診療部 リハビリテーション部門

☆第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2016.11.5-6 — 千葉市 —

『両脛骨疲労骨折再発例に対してインソールと運動療法が奏功した1例』

…畠 英里, 永元英明

『10歳男児の第5腰椎分離すべり症に対して体幹機能訓練により改善が認められた1例』

…阿部允哉, 畠 英里, 永元英明

☆第32回前立腺シンポジウム 2016.12.10-11 — 東京都 —

『PI-RADS version 2に基づく生検症例選択とMRI/TRUS融合狙撃生検についての検討』

…上野誠司<sup>1</sup>、千葉崇宏<sup>2</sup>、船窪正勝<sup>3</sup> 1) 栗原市立栗原中央病院泌尿器科, 2) 同 放射線科(技術部門), 3) 同 放射線科

☆東北地区認知症フォーラム 2016.11.16 — 栗原中央病院 —

『認知症って?症例と共に考える』

…木田真美



# 地域包括ケア病棟 レスパイト入院について

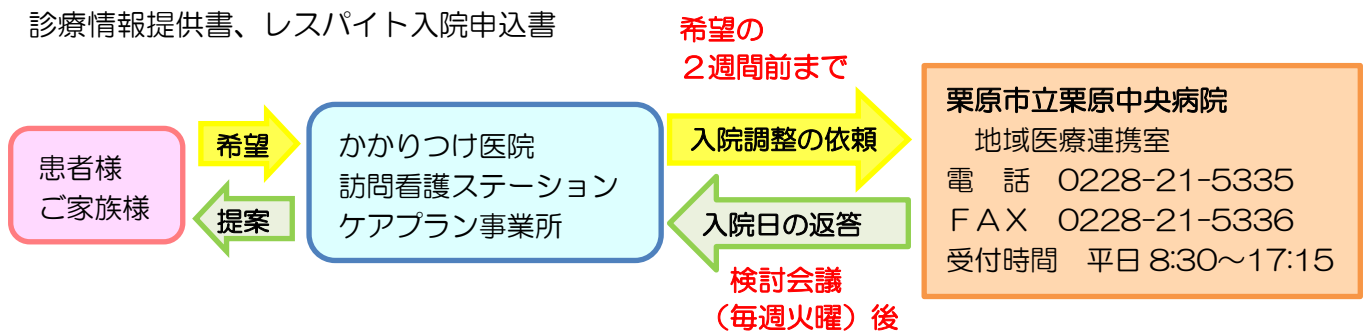
当院では、平成27年9月より3階東病棟に「地域包括ケア病棟」を開設し、地域包括ケア病棟の一部の病棟を利用してレスパイト入院を行ってきました。レスパイト入院の目的は、在宅療養をしている患者様のご家族を支援するためです。平成28年末までに14名の患者様が、35回のレスパイト入院を行っております。対象の患者様は、自宅で療養中の方で、医療行為（喀痰吸引、気管切開、人工呼吸器、中心静脈栄養、胃ろう、腸ろう、麻薬）が重複しており、介護保険施設などでの短期入所が困難である方々に利用していただいております。お申し込みをいただいてから、毎週火曜日の入院判定会議にて、受け入れの可否を判定し回答しております。対象の患者様がおりましたら、お気軽にお問合せください。

## ○対象の患者様について

- ・ 自宅療養している方です。
- ・ 医療行為が複数必要とされる方です。（褥瘡処置、たん吸引、麻薬の管理、胃ろう、腸ろう、気管切開、点滴、在宅酸素など）
- ・ 1回の入院期間は、最長14日間です。（連続しての更新はできません）
- ・ 一般的な血液検査、レントゲン検査、投薬治療は可能です。
- ・ 患者様の状態によって入院継続困難な場合は、予定期間よりも短期間となる場合もあります。

## ○申込みについて

診療情報提供書、レスパイト入院申込書



## ☆☆☆ 栗原市立栗原中央病院 市民公開講座のご案内 ☆☆☆

### 「栗原市の在宅緩和医療～栗原市の在宅医療の現状と課題」

日時：平成29年2月26日（日）13：30 開場 14：00 開演

会場：この花さくや姫プラザ

申込不要 入場無料

座長：栗原市立栗原中央病院 院長 中鉢 誠司 先生

講演：医療法人水天会 宮城島クリニック 院長 宮城島 堅 先生

在宅医療専門 くりはら訪問クリニック 院長 斉藤 群大 先生

公益社団法人宮城県看護協会 栗原訪問看護ステーション 所長 千葉 真弓 氏

栗原市立若柳病院 訪問看護師 佐々木 由美子 氏



### - 編集後記 -

新年おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。さて、連携室では今年の抱負を「**まずは健康第一！**」と掲げました。この抱負を胸に1年間元気に頑張っ参ります。

〒987-2205 宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

栗原市立栗原中央病院（代表）TEL：0228-21-5330 FAX：0228-21-5350

<http://www.kurikaya-central-hp.jp/>

地域医療連携室（直通）TEL：0228-21-5335 FAX：0228-21-5336